

2026年度年
次レポート

職場方程式

人、空間、テクノロジーを連
携させて可能性を広げましょう



内容紹介

はじめに	3
「働く場」、それ以上の価値を調査について	3
職場方程式アセスメント	4
第1部：問題点	5
変化し続ける職場の目的	6
ワークプレイスエクスペリエンス（WX）を担うのは誰か	7
100万ドル級のコストが発生する設計上の欠陥	8
第2部：ソリューション	9
摩擦がなくなれば、仕事はよりスムーズに	10
シンプルさを追求した設計	11
存在よりも目的を重視	12
本当に重要なことを評価	13
第3部：今後の展望	14
インサイトを継続的な行動につなげる	15
分断された縦割りの運用から高度なフローへ	16
職場方程式を解く	18
付録：方法論と地域データ	19

「働く場」、それ以上の価値を

職場は一日の活動を支え、静かに、絶えず生産性、コスト、人材、ウェルビーイングに影響を与えています。しかし、多くの場合、それらは断片的にしか捉えられていません。人事部門は人材を、不動産部門は空間を、IT部門はテクノロジーを管理します。3つの縦割り組織に3種類の予算があり互いに連携することのほとんどない、3つの戦略が存在します。

ロジクールは、これら3つの要素が1つのシステムとしてシームレスに機能したときに何が起るかを測定することにしました。パフォーマンスが高い職場の構成要素や、どのように運営されているか、効果を最大限に引き出すにはどうすればよいかを全体的に考察するためです。なぜなら、人、空間、テクノロジーが連携したとき、パフォーマンスは飛躍的に向上するからです。



私たちは11市場の1,700人のワークプレイスエクスペリエンス（WX、就労体験）の意思決定者を対象に調査を実施しました。データは、職場に期待されるビジネス価値と投資収益率（ROI）の間に乖離があることを示しました。

リーダーたちは、優れたワークプレイスエクスペリエンスがコラボレーションや生産性の向上といった成果をもたらすと考えています。しかし、テクノロジーの問題、セットアップの不統一、不十分なサポートが摩擦を引き起こしています。

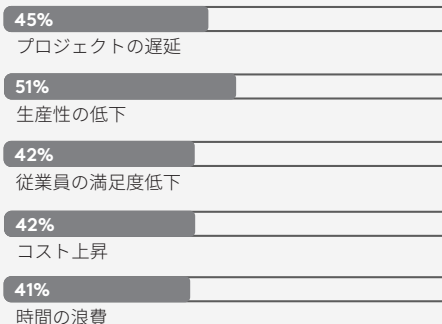
結果リーダーの10人中9人以上（94%）が、WXが業務や組織を十分に支えられなかったことがあると回答しています。

データが示すのは、最もパフォーマンスの高い職場では、人、空間、テクノロジーへの個別投資にとどまっていないということです。これら3つの要素が交差し、一致し、互いに相乗効果を生み出す「交差点」に投資しています。

テクノロジーにより摩擦が解消されると、人々はより自由にコラボレーションできるようになります。空間を意図を持って設計すると、テクノロジーは意識されることなく背景で機能します。人々は支えられていると感じると、目的をもって部屋を利用できるようになります。

これこそが相乗効果です。答えは、すでに目の前にあります。

WXの問題が発生する場所



優れたWXによって改善された主な問題



27%

その明らかな影響力にもかかわらず、**ワークプレイスエクスペリエンスを中核的なビジネス戦略と位置づけている組織はわずか27%**です。

質問：優れたワークプレイスエクスペリエンスが、以下の各項目の改善にどの程度つながるとお考えですか？

対象 = 1,700人（全回答者）

表示されているスコアは、5段階評価の上位2項目の合計です。5 - 非常にそう思う、4、3、2、1 - 全くそう思わない

質問：あなたの組織でワークプレイスエクスペリエンスが業務の支えにならなかった最後のケースについて、どのようなコストが発生しましたか？該当するものをすべて選択してください。対象 = 1,700人（全回答者）

質問：ワークプレイスエクスペリエンスの意思決定は、単なる運用機能ではなく、中核的なビジネス戦略としての程度位置づけられていますか？

対象 = 1,700人（全回答者）

調査について

当社は The Harris Poll に調査を委託し、従業員500人以上の企業のワークプレイスエクスペリエンスの意思決定者を対象に調査を実施しました。1,700人の回答者は、以下の国の11の市場におけるワークプレイスエクスペリエンス（375人）、不動産/施設（441人）、IT（442人）、人事（442人）という4つの主要職務領域を担うリーダーです。カナダ、フランス、ドイツ、インド、日本、フィリピン、サウジアラビア、シンガポール、アラブ首長国連邦、英国、米国。

調査は2026年5月13日から6月4日にかけて実施されました。生データは重み付けが実施されていません。[方法論に関する詳しい説明](#)は付録を参照してください。

職場方程式アセスメント

当社はデータに基づき、測定、運用、戦略を連携させることでパフォーマンスを飛躍的に高める4つの組織成熟度の段階を特定しました。

組織の成熟度レベルは以下のとおりです。

1. 分断：チームは縦割りの運用がなされ、問題が発生してから対応する傾向にあります（回答者の18%）。

2. 提携：チームとデータ指標（フィードバック、利用状況、パフォーマンス、その他のデータ）が連携し始めています（45%）。

3. 最適化：測定、ガバナンス、一貫性がより強固になっています（27%）。

4. 高度化：先を見越して対応し、測定可能、かつ継続的に改善されるシステムが導入されています（9%）。

組織は「職場方程式アセスメント」を受けて、出発点を特定し、特定のギャップに焦点を当ててレベルアップを図ることができます。組織は、成熟度が高くなるにつれて、関連するデータ指標を連携させたり、ROIを証明したり、早い段階でテクノロジーを導入したり、すべてのワークスペースに基準を設定したり、複雑さを解消したりする可能性が高くなります。

アセスメントの策定にあたっての検討項目

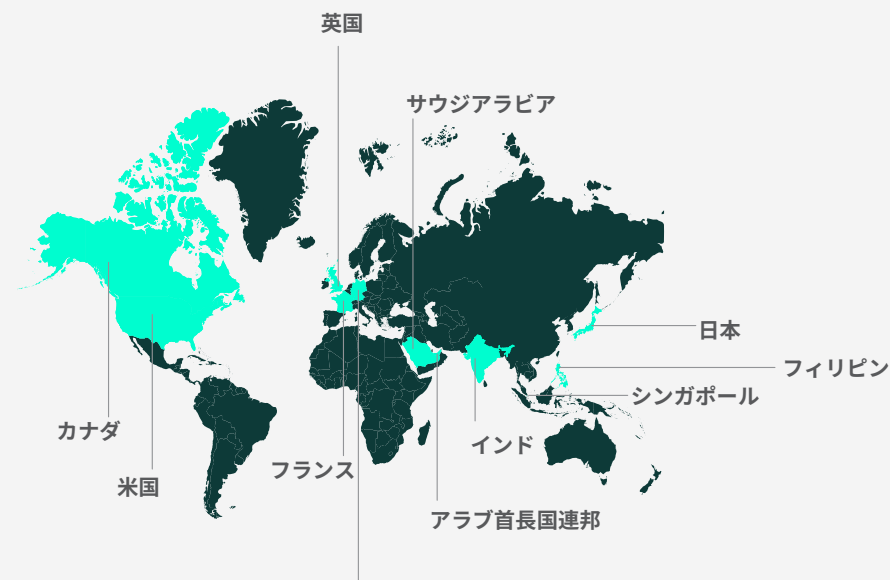
- **測定：**組織はデータ指標を連携させ、ROIを証明できるか？
- **運営：**組織は、一貫性があり、摩擦の少ないワークプレイスエクスペリエンスを提供できているか？
- **戦略：**ワークプレイスエクスペリエンスは、基準を整備し、初期段階からのテクノロジーを関与させるなどして、計画的に設計されているか？

調査について

IT（442人）、人事（442人）、不動産（441人）、およびワークプレイス体験（375人）の各分野における職場体験に関する意思決定者を対象としたグローバルな調査

11
市場

1,700
意思決定者



第1部：

問題点：

変化し続ける職場の目的

私たちは働き方の劇的な進化途上にあり、今日機能している空間が明日必要とされるとは限りません。従業員は、リモート、オンサイト、ハイブリッドの環境を問わず、生産性を発揮したいと考えており、その要求は常に変化し続けています。WX リーダーが自問するのは、自社の空間とテクノロジーが次なる時代のために構築されているかということです。

こうした進化する職場は、仕事の進め方だけではなく、従業員がどのように感じているかにも影響を与えます。

継続的な変化を支えるためには、空間とテクノロジーに機敏性が求められます。人、空間、テクノロジーが連携するように職場が設計されていると、個人の能力を最大限に引き出すことができます。

WX リーダーにとって、これは一歩先に行くチャンスであると同時に、対応しなければ取り残されるリスクでもあります。適切な条件が整えば、集中力を高め、テーブルの向こう側にいても画面越しであっても人々の距離が近づき、アイデアが動き出すきっかけをつくります。



今いる空間は、あなたの仕事を支えてくれていますか？受けている福利厚生であなたの仕事は支えられていますか？提供されている設備はどうですか？デジタルか物理的かを問わず、ツールによって支えられていますか？

施設/設計基準リーダー

従業員がオフィスに出社する理由は、今後変化していくと予想

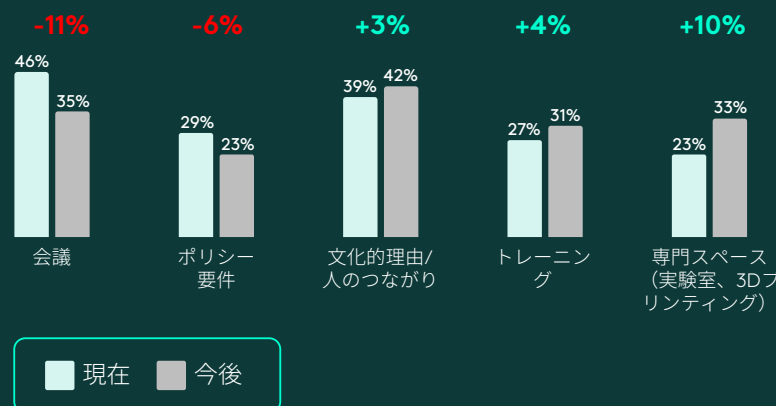
オフィスならではの体験は進化しています。コラボレーションは今後も重要であり続けますが、WX のリーダーたちは今後数年間で新たな優先事項に対応するため、物理的な職場のあり方も変化していくと予想しています。

従業員が出社する主な理由の明らかな変化

(現在と3年後の予測の比較)

- **これまで：**会議 (-11パーセントポイント)
- **これから：**専用スペース (+10ポイント)
- **これから：**実践的なトレーニング (+4ポイント)

従業員が出社する主な理由



質問：貴社の実際のオフィスについて、現在、従業員が出社する主な理由は何ですか？最大3つ選択してください。対象 = 1,694人（完全リモートではない）
 質問：3年後を見据えた場合、従業員が出社する主な理由は何であるべきでしょうか？最大3つ選択してください。対象 = 1,700人（全回答者）



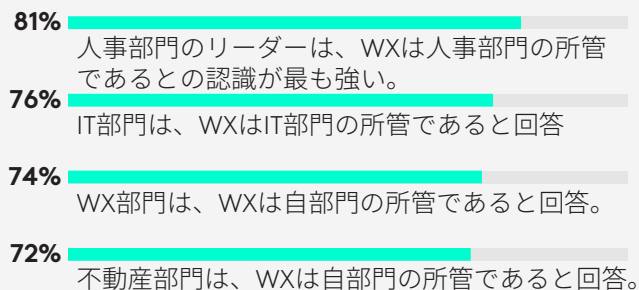
職場体験を担うのは、全員であり、特定の部門ではありません。

人、空間、テクノロジーは、それらを支えるチームが連携して初めて機能します。こうしたチームが連携すれば、職場は機能し、その成果はコラボレーションと従業員体験の向上として現れます。連携が取れていない場合、WXは分割所有され、部分的に計画されることになり、その成果は大幅に低下します。

WX の意思決定者の優先事項と実施の間に乖離があることが明らかになりました。

欠けているのは部門横断的なコラボレーションだけではありません。責任の所在について、各役割の間で認識が一致していないのです。

リーダーたちに、日々の WX について最も明確な権限を持つのはどの部門かと尋ねると、大半が自部門を挙げます。



優先順位と実施

87%が、WX を改善するためには IT、人事、不動産/施設管理の間のコラボレーションが非常に、あるいは極めて重要であると回答しています。

職場への投資判断に関して、共有ロードマップを WX 部門が一元的に担っていると回答したのはわずか34%です。

回答の内訳：貴社において、ワークプレイスエクスペリエンスに関する日々の意思決定権について、最も明確な権限を持っているのは誰ですか？

	回答	者役割			
		人事	IT/AV	ワークプレイス体験	不動産/施設管理
合計					
人事	57%	81%	51%	53%	43%
IT/AV	47%	38%	76%	43%	30%
ワークプレイス体験	45%	31%	40%	74%	40%
不動産/施設管理	38%	16%	19%	47%	72%
業務	36%	33%	40%	38%	34%
財務	21%	22%	24%	24%	15%
経営幹部	43%	44%	56%	38%	32%

意思決定権限

質問：現在、貴社において、ワークプレイスエクスペリエンスに関する日々の意思決定権について、最も明確な権限を持っているのはどの部門ですか？該当するものをすべて選択してください。

全員が一部ずつ所有しているということは、誰も問題の責任を負わなくなるということです。WX の責任が分断されていると、必然的に問題が見逃されてしまいます。この問題は、職場のフローと、その体験を設計するチームのどちらにも影響を及ぼします。

100万ドル級のコストが発生する設計上の欠陥：IT/AV の関与が遅すぎる



事例

ある大手食料品小売業者の企業不動産チームは、データ分析の結果、不動産コンサルタントの推奨に従って追加の空間にコストをかけず、既存の空間の配置を見直すことで、フロアあたりの拡張費用150万ドルを回避することができました。¹

設計のギャップ

より優れた体験をもたらすワークプレイスエクスペリエンスを実現するには、先を見据えた計画が不可欠です。しかし、空間の利用計画の開始前に、IT や AV 部門を関与させている WX リーダーは4人に1人（24%）に過ぎません。つまり、ほとんどの組織では、そこで働く人々を支えるテクノロジーについて検討する前に、オフィスの設計が行われているのです。その結果、組織は設計意図と従業員体験が一致しない職場を抱えることになります。

部門横断的な責任体制

部門横断的なチームも、WX の成熟度を高める上でアドバンテージをもたらします。こういったチームは、単に理論上で連携しているだけではありません。実際の運用においても、ワークプ

レイスエクスペリエンスを機能させるための取り組みが実践されていると回答する傾向が高く、具体的には IT/AV 部門の早期関与、統合された測定、確かな ROI データ、技術的な問題の頻度の低下などがあります。

部門横断的な WX 責任体制の指標：

- **WX の成功に対する自信：** +5パーセントポイント
- **予知保全の実施：** +9ポイント
- **適切な ROI データ：** +5ポイント
- **技術的な問題の頻度の低下：** -9ポイント

これらの調査結果は、職場の成熟度がどの部門が WX を担っているかだけでなく、それらの部門がどのように連携するかに左右されることを示唆しています。

新しいオフィス、会議室、または職場の再設計プロジェクトについて計画を立てる際、IT 部門や AV 機器管理部門は通常どの段階で関与しますか？

わずか



空間の利用計画の開始前

39%

初期コンセプト策定の後、最終設計の前

17%

計画がほぼ確定した後

7%

設置中

13%

プロジェクトによって異なる

第2部：

ソリューション

摩擦がなくなれば仕事がスムーズに

仕事をスムーズに進めるにあたって、摩擦は最大の障壁です。システムがうまく連携していれば、仕事はスムーズに進みます。ただし、それが妨げになれば、その代償は問題が起きた場所をはるかに超えて広がります。

WXの不具合は、以下のような形で実際のビジネスコストに直結します。

- 会議の遅延
- サポート負担の発生
- コラボレーションの妨げ
- 従業員の不信感を誘発

当社のデータは、こうした不具合がよくあることを示しています。

解決策：

摩擦は避けられない現実ではなく、設計のあり方次第です。組織内の摩擦コストを定量化し、職場への投資を測定可能な成果に結びつけることで、連携のためのビジネスケースを構築できます。これには以下が含まれます。

1.摩擦マップの作成：会議の開始準備、音声/ビデオの調整、会議室の予約、デバイス接続、空間の空き状況、会議の公平性、複雑なセットアップなど、従業員の時間を奪っている箇所を特定します。

2.余計な手間を必要としない部屋の設計：職場は、従業員がトラブルシューティングを行わなくても、**対面参加者とリモート参加者の両方にスムーズに対応する必要**があります。

3.IT データ指標を職場データ指標として活用：テクノロジーの問題発生頻度、チケットの量、デバイスの性能、会議開始の遅延を、単なる IT 指標ではなく、**ワークプレイスエクスペリエンスの指標**として扱います。



わずかでも摩擦を取り除くことができれば、最新かつ最高のツールを導入する以上の価値を、組織にもたらすことになります。

人事/従業員体験担当リーダー



テクノロジーの トラブル

71%

従業員が少なくとも時々テクノロジーの問題を経験していると回答、頻繁または極めて頻繁に体験していると回答したのは30%

生産性の低下

94%

WX がうまく機能しないことで、何らかのビジネスコストが発生したと回答、生産性の低下を挙げたのは51%。

時間の損失

16+
分

会議で技術的な問題が発生すると、1人あたり16分以上の時間を失ったと回答したのは30%（損失時間の中央値は12.2分）

データギャップ

58%

ワークプレイスエクスペリエンスやテクノロジーへの投資の妥当性を示すための適切な ROI データを持っていると確信している

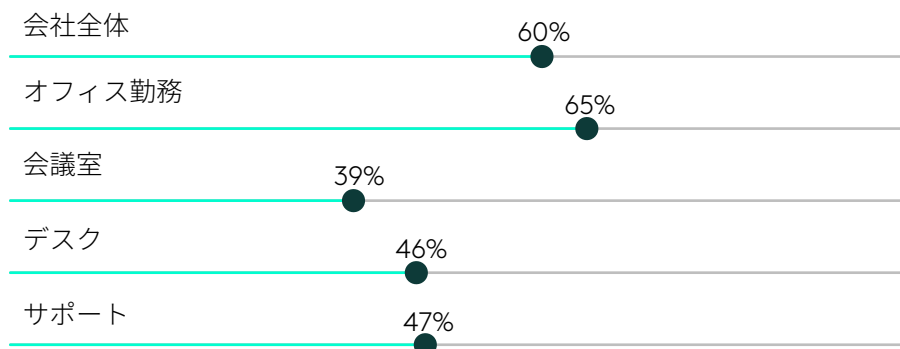
シンプルさを追求した設計

職場テクノロジーを評価する際、最優先事項として使いやすさ（82%）と摩擦の軽減（77%）が挙げられます。こうした設計上の選択こそが、一歩先を行く組織とそうでない組織を分けています。

一貫性は、大規模な環境で成功体験を確実に実現するための鍵です。従業員は、建物、会議室、デバイスを別々に捉えているわけではありません。彼らは、職場全体でテクノロジーが同じように機能することを望んでいます。

すべての体験を標準化するには、あらかじめ組み込まれた原則が必要です。しかし、組織はこの分野で苦戦しています。65%がオフィスレベルの基準を設けている一方で、その基準を他の主要分野にまで広げている組織は50%に届きません。

貴社では現在、ワークプレイスのテクノロジーまたはエクスペリエンスについて、どのような標準を導入していますか？



解決策：

摩擦のない職場環境を構築するには、個々のデスクから大会議室、そしてその間のあらゆる空間にいたるまで、企業全体の基準にシンプルさを組み込む必要があります。これには以下が含まれます。

1. ホームオフィス環境、会議室、フロア、拠点全体で**一貫した体験**を実現する。
2. 従業員がトラブルシューティングではなく業務に集中できるよう、導入、使用、管理、拡張が容易な**テクノロジー**を優先する。
3. レイアウト、基準、ツールを、使用状況やフィードバックに基づいて**柔軟に対応**できるようにする。

事例

35,500人の従業員を抱える国営鉄道会社、スイス連邦鉄道（SBB）にとって、拠点や事業部門をまたぐ効果的なコラボレーションは不可欠なものでした。このニーズに応えるため、SBB はロジクールおよび AV インテグレーター の Auviso と提携し、会議室を一度限りの投資ではなく継続的なサービスとして扱う、利用量ベースの Room-as-a-Service モデルを導入しました。² その結果、以下の成果が得られました：

- 複雑な投資判断を下すことなく、600 の会議室をモダナイズ。
- 予定より2年早く導入を完了。
- 会議室の標準化、使いやすさの向上、常に最新の状態を維持。
- 現在、従業員はどこで働いていても一貫した体験を得られるようになり、同時に企業側も職場管理の簡素化を実現。

[導入事例の全文はこちらをご覧ください。](#)

WX 戦略をデスクにまで広げる

個人の職場ツールを管理しないまま放置することは、セキュリティとパフォーマンスを運任せにすることです。

5人中4人



WX リーダーが指摘するのは、高品質な個人用周辺機器が、組織全体の従業員の日常的な生産性を直接向上させるという点です。

43%
非常に懸念
している



73%
少なくともある
程度に懸念
している



仕事で使用する周辺機器や個人用デバイスに関連するセキュリティリスクに関して。

存在よりも目的を重視

人々の働き方が変化しても、オフィス経験は引き続き重要です。**リーダーの10人中9人近く（89%）が、オフィス環境は、他の場所では得られない体験を提供しているという点に同意しています。**

当然ながら、コラボレーションゾーンが再設計の最優先事項です。しかし、集中できる環境も引き続き重要であり、日々の生産性は、会議室のテクノロジーから空気の質、個人用の周辺機器に至るまで、職場環境全体に左右されます

解決策：

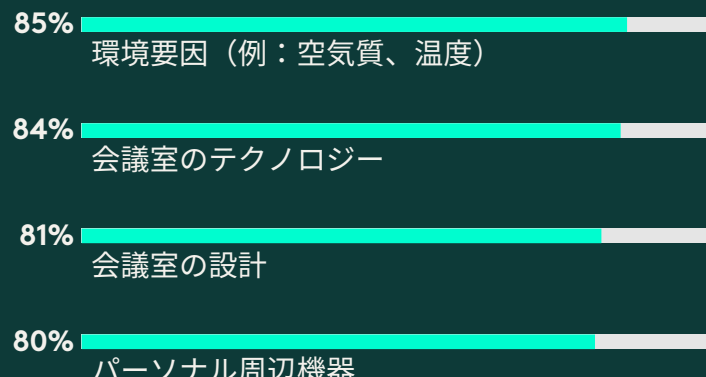
職場の方針が「場所重視」から「どう成果を出すか」へと移行する中で、実行すべき業務を、空間、議論を再構築する必要があります。これには以下が含まれます。

1. オフィス空間を**優先度の高い場面**にマッピング：現在の空間が、従業員が出社する目的に十分に対応しているかどうかを確認する。
2. 「**その場の価値**」を監査：特定のワークスペースで行うことでメリットがない業務を見極める。
3. 単なる出社ではなく、信頼を築くための設計：従業員に対して**対面での勤務が求められる理由**、組織がその体験をどのように改善しているのかを**確実に理解**してもらう。

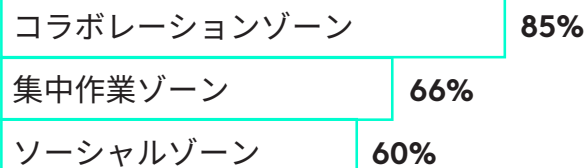
事例

あるバイオテクノロジー企業は、サンフランシスコ本社のフリーアドレス席が、人ではなく私物によって「間接的」に占有されていることに気付きました。そこで専用の保管エリアを設けることでワークスペースを解放し、年間1,300万ドルの拡張コストを回避しました。³

日々の生産性に最も影響を与えるワークプレイス要素 日々の生産性に最も影響を与えるワークプレイス要素



オフィスエリアの再設計を優先するゾーン



ベース=697（再設計を優先すると回答した41%）

より重要なことを評価

職場は、それが機能しているかどうかを判断できることで初めて改善されます。ただし、私たちの調査結果は、多くのリーダーがWXがビジネス成果の向上につながると考えているものの、行動を起こすのに十分な明確な全体像を把握できていないことを示しています。

平均して、リーダーは必要な職場のインサイトを得るうえで、予算の制限（40%）、限られた利用データ（31%）、相互運用性の低さ（27%）といった3つの障壁に直面しています。これは、リーダーが依然としてデータ収集と、その実用的なインサイトへの変換に苦戦していることを示唆しています。

測定を行わなければ、リーダーは根拠ではなく憶測に基づいて意思決定を行うこととなります。

解決策：

将来を見据えた職場では、従業員のフィードバック、空間の利用状況、テクノロジーのパフォーマンス全体についてのデータ取得と連携を重視しています。これには以下が含まれます。

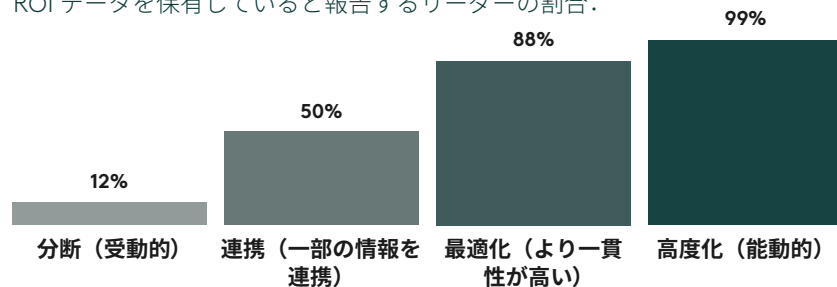
1. データソースを追加する前に、測定の質問を定義する。
2. 取得するデータ指標と人から得られるデータ指標を組み合わせる。利用状況は人々の行動を示し、フィードバックはその理由を説明するのに役立ちます。
3. AIを活用した基本的な空間の最適化、デバイスの監視、問題の予測、よりスマートなサポートを重視する。

9/10

WXリーダーの10人中9人以上が、職場の健全性とROIを最も正確に把握するには、人々がどう感じ、どのように空間を移動し、テクノロジーがどう機能するかを組み合わせる必要がある、と考えています。しかし、WX投資を正当化するために適切なROIデータがあると捉えているリーダーはわずか58%です。

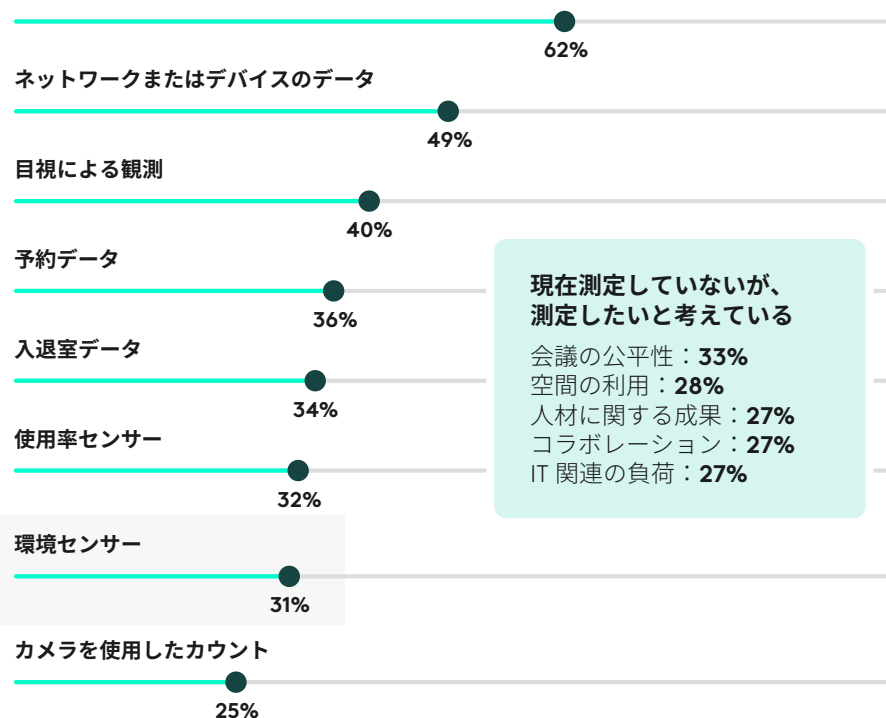
職場方程式アセスメントの証明ポイント

ROIデータを保有していると報告するリーダーの割合：



WXを理解するために使用されるデータソース

従業員アンケート



現在測定していないが、測定したいと考えている

会議の公平性：33%
空間の利用：28%
人材に関する成果：27%
コラボレーション：27%
IT関連の負荷：27%

従業員アンケートは、組織がWXを理解するために使用する主なデータソースです（62%）。アンケートは有益ですが、現場の空気感しか読み取れません。空間自体から収集されたデータ指標は、アンケートでは不可能な客観的な判断材料を追加します。

主な影響要因、限定的な使用

環境要因（空気の質、温度など）は、従業員の日々の生産性に影響を与える主な職場要素やツールとして上位に挙げられました（85%）。ただし、環境センサーを使用している組織は3分の1未満（31%）です。

第3部：

今後の展望

インサイトを継続的な行動につなげる

機会の損失

最高の職場は、常に改善しています。改善し続ける職場システムを構築するには、測定、運用、戦略の連携が不可欠です。しかし、当社のデータによると、ほとんどの組織はこの機会を十分に活かしていません。

- WX リーダーのうち、利用データに基づいてオフィスレイアウトやテクノロジー基準を継続的に更新しているのはわずか32%です。
- 大半（54%）は、そうではなく定期的に更新を行っています。

定期的な更新は、進捗報告には最適です。しかし、実際の状況に基づいて絶えず最適化を行う適応型システムこそが、職場を一步前へと進めます。

今後を見据えた設計

先を見越して適応するシステムを設計すれば、問題が発生してから対処するのではなく、発生前に未然に防ぐことができます。職場のデータを使用して、レイアウト、テクノロジー基準、サポートモデルを継続的に調整します。運用型 AI によってこれは実用化され、すでに職場システムに導入され始めています。

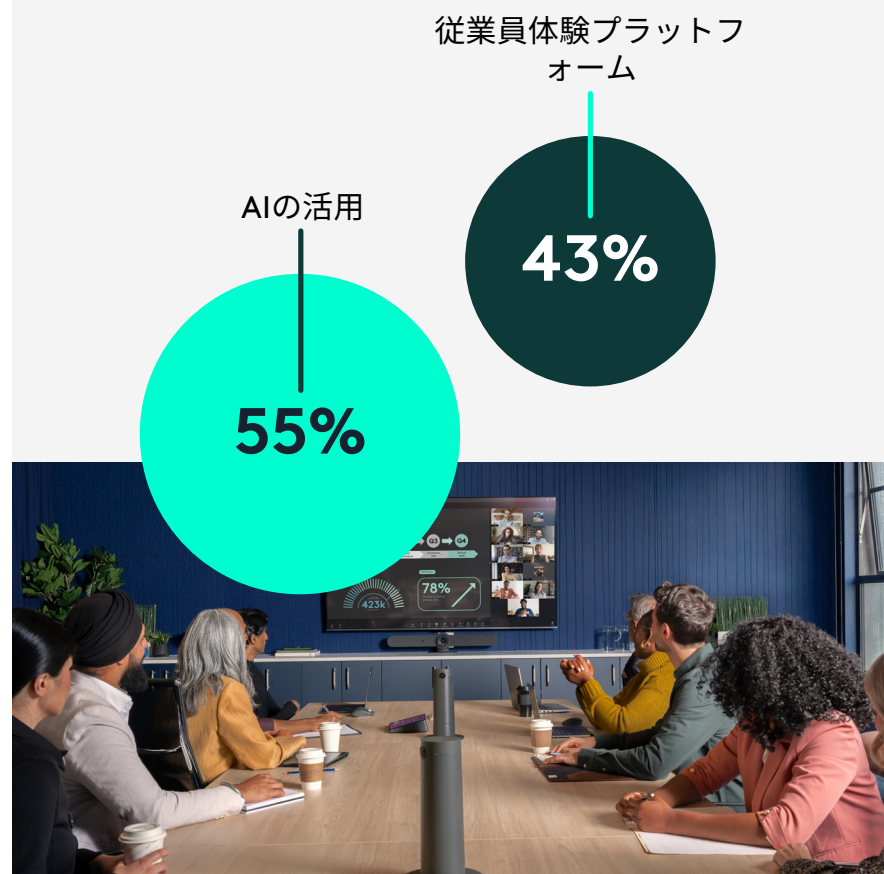
- WX リーダーの半数以上が、アラート（62%）、予知保全（57%）、空間の最適化/職場計画（54%）に AI を活用しています。
- リーダーたちは大きな可能性を見出しており、今後2年間の投資の優先順位では、AI の活用が最上位に位置づけられています。

継続的な最適化は、職場の成熟度を決定づける要因として認識され始めています。職場に関する意思決定に対する自信（97%）はすでに高いものの、そうした意思決定を測定、適応、改善するための能力は、まだ追いついていません。

事例

ある大手金融機関は、実際の利用状況に合わせて建物の運用を調整することで、清掃コストを年間200万ドル、エネルギーコストを30%削減しました。⁴

WX リーダーが今後2年間で投資を予定している分野



分断された縦割りの運用から高度なフローへ

ワークプレイスエクスペリエンスが本来あるべき形で機能していないと認識している組織にとって、今後の道筋は成熟度にかかっています。つまり、何を修正し、何をつなぎ、何を拡張するのが問われるのです。組織が職場方程式アセスメントを進めるにつれて、職場環境システムはより連携が深まり、測定可能で、先を見越した対応が可能になっていきます。得られる成果は積み重なっていくのです。

事例

世界各地に3,700のコラボレーション空間を展開するグローバル製造大手の Mars 社は、各部屋のサイズに応じたハードウェアの標準化を行い、リモート管理によるデバイスの一元的な監視を実現しました。その結果、平均修復時間 (MTTR) が70%短縮されました。⁵

[インタビュー動画はこちらをご覧ください。](#)

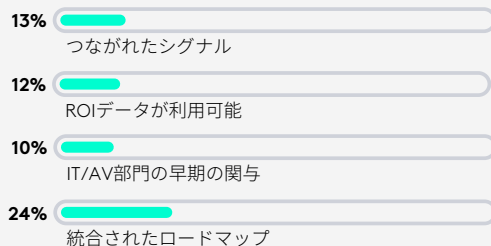
組織の現状

分断された組織と先進的な組織を分けるのは、ツールを増やしているかどうかではありません。職場をいかにシンプルに運用し、使いやすくできるかです。

断片化された状態

18%の組織

WXに関する意思決定者はワークプレイスの様々なシグナルを測定しているが、データは依然として分断されたままです。職場全体の状況を包括的に把握できていない場合、チームはほとんどの時間を、解決すべき問題への対応に費やしてしまいます。



最適化済み

27%の組織

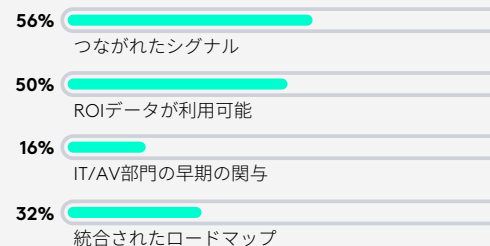
WX分野のリーダーらは、ワークプレイスシステムの核となる要素を結びつけました。測定、ガバナンス、および標準はどれも、摩擦を軽減し、より一貫性のある体験の実現に役立ちます。



連携済み

45%の組織

部門横断型チームが連携を始め、部門を超えてデータをつなぐ取り組みを進めます。コラボレーションは、日常業務に組み込まれた状態よりも、不定期に行われる可能性が高いです。



高度なレベル

9%の組織

WX分野のリーダーらは、インテリジェントな自動化を継続的に測定、最適化、活用しています。彼らは、摩擦を事前に解消し、問題を予見し、ワークプレイスの状況やニーズの変化に応じて適応することができます。



次のアクションを選択

次のステップは、貴社の現状によって異なります。職場環境の向上は段階的に行われます。

- 成熟度の低い組織は、基本を安定させる必要があります。
- 中程度の成熟度の組織は、チーム、データ、意思決定を連携させる必要があります。
- 成熟度の高い組織は、有効な施策を最適化、自動化、拡張する必要があります。

貴社が1つのカテゴリーに完全に当てはまるとは限りませんが、それが自然です。多くの組織は、特定分野で強みを発揮する一方で、他の分野ではまだ発展途上にあります。これらの段階を厳格な枠組みとしてではなく、指針として活用し、どこに重点的に取り組みれば最大の効果が得られるかを見極めましょう。



1

分断

基本への取り組み

- ✓ 責任の所在を定義する。
- ✓ テクノロジーの最低基準を設定する。
- ✓ ROI の測定を開始する。
- ✓ IT/AV 部門を計画のより早い段階で関与させる。

2

連携

運用モデルの連携

- ✓ 非公式のコラボレーションから共有ガバナンスへと移行する。
- ✓ 部門横断的な計画を強化する。
- ✓ 人事、IT、空間のデータを連携させる。
- ✓ 再現可能な意思決定マップを作成する。

3

最適化

職場フローの改善

- ✓ 摩擦マップを作成する。
- ✓ 継続的な最適化を拡大する。
- ✓ 未達成の成果を測定する。
- ✓ 会議室とデバイス体験を標準化する。

4

高度化

インテリジェントシステムの拡張

- ✓ AI を使用してデータ指標をモニターし、空間を計画する。
- ✓ 予知保全を導入する。
- ✓ サポートを自動化して、職場の運用を簡素化する。
- ✓ インテリジェントに基準を拡張する。

職場方程式を解く

職場は中立的な存在ではありません。それは従業員の能力を抑え込むか、最大限に引き出すかのどちらかです。

能力を引き出す職場とは、目的を持って構築された職場です。そうした職場は意図的に設計され、効果を測定可能であり、サイロ化されることなく連携が取れており、働く場所や働き方にかかわらず、すべての従業員に一貫した体験を提供します。

環境、テクノロジー、ツール、物理的な空間がどれだけうまく融合するかは、それらを支えるチームがいかに連携し、WX に対する責任を共有できるかにかかっています。これらの要素が一体となって機能するとき、ワークプレイスエクスペリエンスは、確かな成果を生み出すビジネス基盤となります。

今求められているのは、進化し続ける職場をつくることです。

そして、進化とは複雑化を意味するものではありません。先進的な組織は、積極的に変化に対応し、摩擦を取り除き、従業員が最高のパフォーマンスを発揮できる環境を整えています。

あなたの職場は成果を上げていますか、それとも単に機能しているだけですか？

次の質問を自身に問いかけてみてください。

- テクノロジーは業務を支えていますか、それとも妨げていますか？
- 意思決定のベースとなるのは、関連するデータ指標ですか、それとも推測ですか？
- チームは協力して設計していますか、それともバラバラに設計していますか？
- 職場は継続的に改善していますか。それとも、定期的な更新時にのみ見直していますか？

貴社の職場環境がどのようなレベルにあるのかをご確認ください。

当社の職場方程式アセスメントは、調査データに裏付けられたものであり、貴社の職場体験をベンチマーク評価するとともに、今後の改善に向けた実用的なロードマップを提供します。

アセスメントを受ける

付録

方法論と出典

Harris Poll による定量調査

本調査は、ロジクールの委託により The Harris Poll が実施しました。カナダ、フランス、ドイツ、インド、日本、フィリピン、サウジアラビア、シンガポール、アラブ首長国連邦、英国、米国の従業員500名以上の企業でワークプレクセスプレリエンシスの意思決定に関与する1,700名を対象に、17分間のオンラインアンケートを行いました。調査は、2026年5月13日から6月4日にかけて実施されました。

本調査の回答者は、当社の調査への参加に同意した方の中から選出されました。Harris のオンラインアンケートのサンプリング精度は、ベイズ信頼区間を用いて測定されています。本調査のサンプルデータの誤差範囲は、95%の信頼水準で ± 2.4 パーセントポイント以内の精度です。調査対象集団のサブグループ別の分析では、この信用区間はより広くなります。

すべての標本調査および世論調査には、確率抽出法の使用の有無にかかわらず、通常は定量化や推定が困難なさまざまな誤差要因が存在します。これには、カバレッジ誤差、無回答に伴う誤差、質問の文言や回答選択肢に起因する誤差、調査後の重み付けやその他の補正などが含まれますが、これらに限定されません。生データには重み付けが行われていないため、データは調査に回答した個人のみを反映しています。

職場方程式アセスメント

本アセスメントは、ワークプレクセスプレリエンシスに関する11の質問への回答に基づいた総合スコアであり、各質問には異なる重要度（重み）が設定されています。回答に応じて、最終スコアは0から100になり、100が最も先進的であることを示します。質問は、3つの柱（測定、運用、戦略）で構成されています。3つの柱はそれぞれ個別に算出され、職場方程式において均等に重み付けされます。

本アセスメントに関するご質問は、ロジクールまたは The Harris Poll までお問い合わせください。

その他の出典

¹ ロジクールの提携パートナーである VergeSense が提供した顧客導入事例データに基づく（2026年）。[\[リンク\]](#)

² ロジクール、SBB CFF FFS（スイス連邦鉄道）、2026年。[\[リンク\]](#)

³ ロジクールの提携パートナーである VergeSense が提供した顧客導入事例データに基づく（2026年）。[\[リンク\]](#)

⁴ ロジクールの提携パートナーである VergeSense が提供した顧客事例データに基づく（2026年）。[\[リンク\]](#)

⁵ Mars 社のお客様の声、2026年。Mars 社が MTTR を70%削減、ロジクール | Logicool for Business LinkedIn 投稿。[\[リンク\]](#)

市場データの読み方

市場レベルの数値を引用する前に必ずお読みください。

- 数値は、Harris マーケットのクロス集計表から直接取得した、加重処理されていない生データです。本文中の四捨五入された数値とは、1~2ポイント程度の差が生じる場合があります。
- 国別では集計対象数が小さくなります。米国/カナダは400、ドイツ、フランス、英国、日本は200、インド、シンガポール、フィリピン、サウジアラビア、UAE は100です。 ± 2.4 ポイントの誤差は、これらのサブセットでは大幅に拡大するため（ $n=100$ で約 ± 10 ポイント）、市場調査の数値は傾向を示すにとどまります。
- 調査は11か国の市場を対象としましたが、Harris は米国とカナダを1つの列にまとめて国別データを報告しているため、表には10列が示されています。



地域別の内訳

各表には、全体の結果と10の地域別の列が示されています。各表の下には、重み付け前のサンプル数（n）が記載されています。地域別の数値はサンプル数が少ないため、傾向としてご覧ください。

組織の64%は、職場形態が「完全/ほぼオフィス勤務」であり、35%が「ハイブリッド」、わずか1%が「ほぼ/完全リモート」となっている | Q1

	合計	米国/カナダ	ドイツ	フランス	英国	日本	インド	シンガポール	フィリピン	サウジアラビア	UAE
完全/主にオフィス勤務	64%	67%	64%	52%	56%	66%	67%	65%	69%	74%	76%
ハイブリッド	35%	31%	35%	47%	44%	33%	32%	35%	31%	25%	23%
ほぼ/完全リモート	1%	2%	1%	1%	1%	1%	1%	0%	0%	1%	1%

現在、リーダーの70%が、自組織のポジティブなワークプレイスエクスペリエンスの構築に成功していると評価 | Q2 上位2項目（T2B）

	合計	米国/カナダ	ドイツ	フランス	英国	日本	インド	シンガポール	フィリピン	サウジアラビア	UAE
成功と評価（T2B）	70%	82%	56%	68%	71%	53%	81%	54%	75%	79%	76%

従業員が出社する主な理由 | Q3

	合計	米国/カナダ	ドイツ	フランス	英国	日本	インド	シンガポール	フィリピン	サウジアラビア	UAE
対象 (n)	1694	397	199	200	200	200	99*	100	100	99*	100
コラボレーション	50%	51%	54%	55%	54%	46%	49%	54%	48%	38%	39%
会議	46%	48%	47%	44%	43%	44%	48%	44%	43%	54%	43%
集中した作業	43%	44%	33%	34%	42%	52%	45%	38%	53%	42%	52%
文化/つながり	39%	35%	34%	39%	48%	46%	39%	48%	32%	33%	38%
リーダー間の連携	35%	36%	34%	36%	33%	30%	44%	28%	39%	39%	37%
方針で必要だから	29%	30%	31%	22%	32%	27%	28%	27%	27%	36%	29%
トレーニング	27%	32%	25%	36%	25%	19%	22%	24%	31%	30%	20%
専用スペース	23%	19%	32%	25%	17%	22%	18%	23%	24%	20%	35%

リーダーの97%が、ワークプレイスエクスペリエンスについて意思決定を適切に行っていると確信 | Q9 T2B

	合計	米国/カナダ	ドイツ	フランス	英国	日本	インド	シンガポール	フィリピン	サウジアラビア	UAE
WX についての意思決定に確信 (T2B)	97%	99%	96%	98%	98%	92%	98%	98%	100%	98%	99%

職場への投資判断（テクノロジー + 空間 + 人材）に関して、共有ロードマップを WX 部門が一元的に担っていると回答したのはわずか34% | Q22a

	合計	米国/カナダ	ドイツ	フランス	英国	日本	インド	シンガポール	フィリピン	サウジアラビア	UAE
統合 WX 部門がロードマップを担っている	34%	31%	34%	35%	32%	35%	36%	42%	49%	20%	37%

新しいオフィス、会議室、または職場の再設計プロジェクトが計画される際、空間プランニングの開始前に IT/AV 部門が関与しているのは24%。つまり、テクノロジー部門は、自らが設計に関与していない会議室のサポートを求められることが少なくない。39%は初期コンセプト策定の後、最終設計の前に IT/AV 部門が関与すると回答し、17%が計画がほぼ確定した後、7%が導入中、13%はプロジェクトによって異なると回答 | Q25

	合計	米国/カナダ	ドイツ	フランス	英国	日本	インド	シンガポール	フィリピン	サウジアラビア	UAE
空間の利用計画の開始前	24%	24%	20%	25%	31%	23%	24%	15%	40%	20%	14%
初期コンセプト策定の後、最終設計の前	39%	37%	42%	38%	39%	37%	36%	41%	34%	43%	52%
計画がほぼ確定した後	17%	19%	18%	17%	14%	17%	24%	29%	8%	14%	16%
導入中	7%	7%	9%	9%	4%	7%	6%	5%	8%	7%	8%
プロジェクトによって異なる	13%	12%	12%	12%	13%	18%	10%	10%	10%	16%	10%

WXの不具合が顕在化する箇所：ビジネスの摩擦にかかるコスト | Q28

	合計	米国/カナダ	ドイツ	フランス	英国	日本	インド	シンガポール	フィリピン	サウジアラビア	UAE
対象 (n)	1700	400	200	200	200	200	100	100	100	100	100
生産性の低下	51%	55%	42%	45%	57%	49%	55%	46%	54%	44%	62%
プロジェクトの遅延	45%	42%	46%	45%	46%	48%	44%	39%	60%	44%	49%
コストの増加	43%	39%	43%	38%	44%	49%	47%	43%	37%	44%	57%
従業員体験の低下	42%	42%	41%	39%	48%	33%	51%	45%	46%	43%	38%
時間の浪費	41%	39%	31%	38%	45%	42%	48%	45%	50%	43%	47%
従業員定着率の低さ	32%	35%	29%	27%	30%	29%	33%	37%	29%	46%	31%

リーダーの71%が、従業員は少なくとも時々はテクノロジーの問題を経験していると回答し、30%が頻繁または極めて頻繁に経験していると回答 | Q31 T3B および T2B

	合計	米国/カナダ	ドイツ	フランス	英国	日本	インド	シンガポール	フィリピン	サウジアラビア	UAE
少なくとも時々 (T3B)	71%	68%	71%	72%	74%	77%	67%	78%	61%	73%	72%
頻繁または非常に頻繁 (T2B)	30%	32%	34%	33%	25%	23%	32%	28%	18%	46%	34%

リーダーの89%が「従業員は、オフィス、リモート、または複数の拠点で勤務しているかどうかにかかわらず、作業環境全体で一貫した体験を得ている」ことに同意。 | Q33 T3B

	合計	米国/カナダ	ドイツ	フランス	英国	日本	インド	シンガポール	フィリピン	サウジアラビア	UAE
設定全体で一貫した体験 (T3B)	89%	92%	92%	91%	84%	83%	92%	81%	87%	99%	92%

リーダーの52%が、職場テクノロジーは1年前よりも複雑になったと回答し、26%がほぼ同じ、23%が以前より複雑ではなくなったと回答 | Q41合算値

	合計	米国/カナダ	ドイツ	フランス	英国	日本	インド	シンガポール	フィリピン	サウジアラビア	UAE
以前より複雑になった	52%	51%	59%	49%	56%	36%	48%	60%	57%	46%	62%
ほぼ同じ	26%	26%	25%	34%	27%	24%	20%	28%	21%	21%	23%
以前より複雑ではなくなった	23%	23%	17%	18%	18%	40%	32%	12%	22%	33%	15%

企業は、オフィスベース（65%）や全社共通（60%）を筆頭に、サポートベース（47%）、デスクベース（46%）、会議室ベース（39%）など、複数のレベルの職場テクノロジーや体験基準を導入 | Q43

	合計	米国/カナダ	ドイツ	フランス	英国	日本	インド	シンガポール	フィリピン	サウジアラビア	UAE
オフィスレベル	65%	63%	52%	56%	71%	66%	80%	67%	75%	69%	70%
全社	60%	65%	54%	58%	63%	44%	71%	58%	75%	58%	57%
サポート層	47%	51%	38%	40%	53%	34%	59%	48%	52%	52%	64%
デスクベース	46%	51%	38%	51%	51%	41%	49%	41%	50%	42%	36%
会議室ベース	39%	36%	44%	42%	41%	40%	34%	41%	28%	43%	44%

ワークプレイスエクスペリエンスと職場テクノロジーへの投資を正当化するための適切な ROI データを持っていると回答したのはわずか58% | Q46 T2B

	合計	米国/カナダ	ドイツ	フランス	英国	日本	インド	シンガポール	フィリピン	サウジアラビア	UAE
適切な ROI データを持っている (T2B)	58%	65%	47%	59%	56%	43%	67%	44%	69%	74%	64%

意思決定者が WX を把握するために使用するデータソース | Q49

	合計	米国/カナダ	ドイツ	フランス	英国	日本	インド	シンガポール	フィリピン	サウジアラビア	UAE
対象 (n)	1700	400	200	200	200	200	100	100	100	100	100
従業員アンケート	62%	60%	58%	52%	63%	59%	73%	69%	77%	66%	60%
ネットワークまたはデバイスのデータ	49%	51%	41%	38%	54%	49%	64%	52%	61%	41%	44%
目視による観測	40%	42%	38%	40%	40%	29%	44%	41%	53%	41%	38%
予約データ	36%	39%	36%	29%	40%	34%	44%	39%	29%	35%	35%
入退室データ	34%	30%	24%	42%	40%	46%	38%	18%	30%	31%	38%
使用率センサー	32%	33%	29%	31%	33%	24%	27%	39%	34%	38%	35%
環境センサー	31%	34%	24%	27%	33%	28%	31%	37%	38%	33%	27%
カメラを使用したカウント	25%	27%	14%	21%	24%	24%	37%	26%	28%	22%	35%

投資の優先順位は、AI を活用した体験主導型の職場を示唆しています。今後2年間で、リーダーたちは AI、従業員体験プラットフォーム、セキュリティ、再設計、利用状況分析を重視することになると予想しています。AI 運用支援55%、従業員体験プラットフォーム43%、セキュリティツール41%、ワークスペースの再設計41%、利用状況分析35%、サステナビリティ取り組み33%、パーソナルワークスペースツール32%、マネージドサービス31%、会議室 A/V 30% | Q51

	合計	米国/カナダ	ドイツ	フランス	英国	日本	インド	シンガポール	フィリピン	サウジアラビア	UAE
AI 運用支援	55%	56%	50%	58%	53%	55%	66%	40%	65%	58%	49%
従業員体験プラットフォーム	43%	45%	33%	30%	49%	40%	56%	45%	52%	47%	50%
セキュリティツール	41%	43%	34%	40%	41%	41%	59%	41%	52%	22%	47%
ワークスペースの再設計	41%	43%	38%	35%	42%	40%	42%	41%	53%	46%	34%
利用状況分析	35%	40%	28%	32%	42%	29%	34%	40%	35%	38%	34%
サステナビリティの取り組み	33%	31%	26%	31%	34%	28%	45%	38%	45%	41%	42%
パーソナルワークスペースツール	32%	31%	28%	28%	29%	29%	41%	39%	42%	35%	34%
マネージドサービス	31%	32%	30%	30%	32%	29%	40%	33%	31%	31%	29%
会議室 A/V	30%	29%	24%	25%	36%	29%	39%	30%	26%	34%	38%

投資の優先順位が高いオフィスゾーン（再設計を優先している企業の中で） | Q51A

	合計	米国/カナダ	ドイツ	フランス	英国	日本	インド	シンガポール	フィリピン	サウジアラビア	UAE
対象（n）	697	172	75*	70*	84*	80*	42*	41*	53*	46*	34*
コラボレーションゾーン	85%	90%	76%	74%	93%	83%	83%	85%	91%	78%	82%
集中作業ゾーン	66%	64%	63%	63%	74%	64%	67%	71%	64%	61%	71%
交流ゾーン	60%	62%	55%	66%	68%	43%	69%	59%	68%	54%	53%

対象 = 職場環境の再設計を優先すると回答した41%。サンプル数が少ないため、参考値。

リーダーの74%が、仕事で使用する周辺機器や個人用デバイスに関連するセキュリティリスクを懸念 | Q54 T3B

	合計	米国/カナダ	ドイツ	フランス	英国	日本	インド	シンガポール	フィリピン	サウジアラビア	UAE
デバイスのセキュリティに関する懸念（T3B）	74%	70%	62%	77%	73%	76%	81%	81%	75%	77%	87%

32%の組織が利用データに基づいて物理的なオフィスレイアウトや職場テクノロジーの基準を継続的に更新している一方、54%は定期的（四半期ごと、年次など）に見直しと更新を行っており、13%は事後対応型で、何かが故障したときやリース契約の終了時にのみ変更を行っている | Q57

	合計	米国/カナダ	ドイツ	フランス	英国	日本	インド	シンガポール	フィリピン	サウジアラビア	UAE
継続的に更新	32%	35%	37%	35%	30%	21%	36%	31%	24%	31%	35%
定期的に実施	54%	50%	54%	50%	58%	62%	55%	53%	54%	61%	57%
問題が発生してから対応（何かが故障したとき）	13%	14%	9%	15%	13%	17%	9%	15%	22%	8%	8%

27%がワークプレイスエクスペリエンスを中核となるビジネス戦略として捉え、24%が運用機能として捉え、48%がその両方を同等に捉えている | Q59

	合計	米国/カナダ	ドイツ	フランス	英国	日本	インド	シンガポール	フィリピン	サウジアラビア	UAE
中核となるビジネス戦略	27%	25%	28%	24%	29%	27%	33%	23%	21%	34%	30%

ワークプレイスエクスペリエンス成熟度スコア：対象リーダーすべてのワークプレイスエクスペリエンス成熟度スコアの平均は70.0です（0～100のスケールで、100が最も成熟）

	合計	米国/カナダ	ドイツ	フランス	英国	日本	インド	シンガポール	フィリピン	サウジアラビア	UAE
平均スコア（0～100）	70.0	72.6	66.6	68.8	70.0	65.3	74.2	64.9	74.7	74.1	71.1

ワークプレイスエクスペリエンス成熟度スコアのセグメント：ワークプレイスエクスペリエンス成熟度スコアの内訳は、高度化（85～100）が9%、最適化（75～84）が27%、連携（60～74）が45%、分断（0～59）が18%となっています。

	合計	米国/カナダ	ドイツ	フランス	英国	日本	インド	シンガポール	フィリピン	サウジアラビア	UAE
高度化（85～100）	9%	14%	2%	6%	12%	8%	15%	4%	16%	9%	8%
最適化（75～84）	27%	29%	21%	31%	25%	23%	32%	17%	34%	36%	31%
連携（60～74）	45%	45%	56%	43%	42%	39%	40%	47%	40%	50%	48%
分断（0～59）	18%	12%	22%	21%	22%	32%	13%	32%	10%	5%	13%

logicool. for business

株式会社ロジクール

Logitech Europe S.A.

-
-

購入後のお問い合わせ:

株式会社ロジクールカスタマー
リレーションセンター
<https://prosupport.logi.com/>

©2026 Logitech, Logicool.株式会社ロジクールは、Logitech Groupの日本地域担当の日本法人です。ロジクール、Logicoolおよびそれらのロゴは、Logitech Europe S.A.および/または米国およびその他の国における関連会社の商標です。ロジクールは、この出版物に存在する可能性のある誤記に対して一切責任を負うことはありません。本書に記載されている製品、価格、および機能情報は、予告なく変更される場合があります。

発行：2026年9月